

平成26年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

(平成26年度対象)



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

平成27年9月

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組です。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できる。

2 点検・評価の対象となる事業

第3次府中市長期総合計画の第3期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な事務事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とする。

3 対象となる期間

平成26年度とする。

4 点検・評価の実施方法

(1)教育委員会における点検・評価

事務事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施する。

(2)学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行う。

学識経験を有する者として、前府中市教育委員会委員長 脊尾咲枝 氏 及び前府中市PTA連合会会長 西宮晴之 氏 に御意見をいただく。

5 評価方法

事務事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行う。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されている。

平成27年3月31日現在

職名	氏名	任期	
委員長	田中幸夫	平成25年10月1日～ 平成29年9月30日	2期目
委員長職務代理	神田純治	平成23年7月3日～ 平成27年7月2日	2期目
委員	井上博昭	平成24年12月19日～ 平成28年12月18日	1期目
委員	骨田るり子	平成24年12月19日～ 平成28年12月18日	1期目
教育長	平谷昭彦	平成25年4月1日～ 平成28年2月29日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など平成26年度は、17回の教育委員会会議を開催し、52議案について審議しました。

III 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教委総務課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
通学バス運行业務委託事業	現状維持	事業改善	
学校給食調理、配送及び洗浄委託事業	目的絞込	事業改善	
学校給食センター設備及び厨房機器・器具修理事業	事業改善	事業改善	

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市歴史民俗資料館改修事業	現状維持	現状維持	
備後国府跡確認・整備・活用事業	現状維持	事業改善	

ii 学校教育課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
外国語指導助手招致事業	事業改善	事業改善	
キャリア教育推進事業	現状維持	現状維持	
適応指導教室	現状維持	現状維持	
小中一貫教育推進事業	事業改善	事業改善	
学校・図書館教育推進事業	現状維持	現状維持	
不審者情報等配信事業	現状維持	現状維持	
放課後児童クラブ推進事業	事業改善	事業改善	

iii 生涯学習課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市文化センターや公民館を中心とした芸術文化活動の振興	事業改善	事業改善	
府中市生涯学習まちづくり出前講座	事業改善	事業改善	
府中市生涯学習センター活用推進事業	事業改善	目的絞込	
下川辺・南・府中・龍田・西・岩谷・栗生・上下公民館整備事業	現状維持	現状維持	
地域の人材を生かした学習機会の充実	事業改善	事業改善	
スポーツグループ・スポーツリーダー育成事業	現状維持	目的拡大	
府中学びフェスタ	事業改善	事業改善	

iv 外部有識者による評価

1 教委総務課関係

- (1) 通学バス運行や路線バス利用は、遠距離通学の児童生徒の通学手段として、安全・安心・確実に運行されることが、大切な教育条件と考えられる。

運行の効率性も考慮しながら、関係機関との連携を密にし、気象状況の変化に対応し、適切な対応を望む。また、バス利用の児童生徒の体力低下が懸念されるので、バス停までの可能な範囲での徒歩利用も取り入れるなど、工夫を凝らしてほしい。

- (2) 府中市では、小中学校全児童生徒にセンター方式により完全給食が実施されており、栄養面の充実や食育指導も出来、児童生徒の心身の発達上好ましい状況である。また、地産地消率の向上の取組を推進することで、生産者と子どもたちが身近な学校給食を通して、食の大切さ、ありがたさを学べる契機となっている。本来は家庭での食育指導が望ましいが、食べ残しの調査などの情報を共有化することにより、児童生徒の食育指導の充実が図れるものと期待する。
- (3) 給食センターの設備厨房機器の点検・修繕が定期的に行われている。また、集中調理のため、清潔面の徹底や異物混入の点検など、安全面に十分に配慮しながら、日々の調理を実施し、児童生徒が安心して食べることができる給食の提供ができるような事業の推進を望む。
- (4) 府中市歴史民族資料館については、壁の亀裂等の応急的な修理と、将来的には、移築し保存公開活用を行う改修事業がある。府中市の歴史的・文化的な環境の充実をめざし、子どもたちが郷土への愛着と誇りがもてる環境づくりが必要である。
- (5) 備後国府跡を中心とした府中市の埋蔵文化財の発掘調査、整理調査、出土品の収蔵・展示、普及・研究活動を行い、府中市民が府中らしさを大切にし、郷土への愛着をもてるような事業を進めていただきたい。また、平成27年度の国史跡指定に向けた取組を継続していただきたい。

2 学校教育課関係

- (1) 外国語指導助手（ALT）の指導により、ネイティブな外国語に接することができ、府中市のような外国語に接する機会が比較的少ない環境では、非常に効果的な指導法である。

将来的な小学校での英語必須化に向け、ALTを増員し、地域の人材に協力を求めて、生きた外国語に早い時期から触れる機会をつくり、これからのグローバル社会を生きていく児童生徒のために、今後も、外国語指導助手の人材確保に努めていただきたい。

- (2) キャリア教育の重要性は、現在社会的にも認識され、市内中学校2年生全員

を対象に、事業所の協力のもと継続して実施できている。

この貴重な職場体験を通じて、職業観や社会観、マナーや挨拶・言葉遣いを早い時期から身に付けることで、社会に対応する能力を習得することができる。

キャリア教育の目標達成のために、事前事後の取組も含め、今後も、一層の内容充実を期待している。

- (3) 適応指導教室は、通室児童生徒の学校復帰と社会的自立の支援が目的である。不登校児童生徒が増加している中で、複雑な個々の状況に応じたきめ細かな支援が必要である。指導教室と学校・家庭との連携を密にし、原因の究明を行い、学校復帰につなげて欲しい。

- (4) 小中一貫教育は、府中市では10年が経過し、各学園で推進会議や協議会を定期的に行い、授業改善や、コミュニティ・スクールなど地域を生かした実践を行い、学力や体力の向上に確実に成果が現れている。

各学園間で実践交流をしながら、互いに高めあう体制づくりが必要である。小中一貫教育とコミュニティ・スクールの連携を模索し、地域資源の人材を含めた掘り起しを行い、府中市らしい教育につなげて欲しい。

また、全国に先駆けて取組んだ府中市の小中一貫教育を検証し、外に向けて発信することで、新たなステップアップにつながるのではないかと考える。

- (5) 学校図書館教育では、図書館司書の適切な配置や豊かな蔵書、図書館に行きたくなる環境づくりが必要とされる。読書離れの拡大が懸念される中で、子どもたちが本を手にする習慣作りのために、興味の湧く図書の購入や、図書館司書の増員など、読書環境づくりを今後も継続して推進されるよう期待する。

- (6) 不審者情報の配信については、子どもの安全確保のために有効な手段である。個人情報の漏洩防止に努めながら、迅速で正確な情報提供を求める。

- (7) 放課後児童クラブは、保護者の就労のため必要な制度であり、利用する児童の増加、対象も3年生から6年生までに拡大されたことにより、施設の環境整備や指導員の増員が必要である。

児童の生活指導や学習指導も必要になることから、専門的な知識を持つ指導員の適切な配置が必要であると思われる。

3 生涯学習課関係

- (1) 芸術・文化活動の振興について、府中市の地域に残る文化の伝承に取り組むことは、将来のまちづくりを考える上で欠くことのできない重要な分野である。市美展、県美展等の開催や、各種団体の活動や発表会を通して、市民がともに集い楽しみ、心豊かな生活が送れる場が提供されることは、生涯学習の場として有意義な事業である。

芸術・文化活動に対する市民の関心を高めるために、市内の小中高等学校と連携し、若者の市美展・県美展などへの作品の応募を増やし、底辺の拡大につなげる施策を取っていただきたい。

- (2) まちづくり出前講座は、市民と行政が一体となってまちづくりを進めていくために、市職員が講師として市内に出向き実施している。前年度と比較し、大幅に受講者が減少している原因をアンケート等実施して分析し、受講者のニーズにあった講座メニュー開設など、検討する必要がある。
- (3) 生涯学習センターの活用については、応募者の少ない講座は利用者のニーズとマッチしていたかどうか検証し、より利用者のニーズに沿えるような講座の開設をしていただきたい。
- (4) 近年の高齢化社会において、地域の公民館は、集まって学んだり体力づくりに取組んだり、様々な活動が幅広く行われ、生きがいに通じる大切な場であり、防災拠点としても利用される施設であるので、安全で安心して利用できるよう、環境整備に力を注いで欲しい。
- (5) スポーツグループ・スポーツリーダーの育成事業においては、指導者研修会を開催するなど、市内の指導者の育成に取り組まれています。様々なスポーツの経験者の中から新たな指導者の発掘にも努めていただきたい。
- (6) 「府中学びフェスタ」は、平成26年度は第4回を迎え、府中市を代表するイベントのひとつとして、来場者も2日間で3万人を超え、市民の学びの場として成長してきている。参加者は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、公民館サークル、女性会、町内会、老人クラブ、NPO団体と幅広く、26年度は企業から協賛金もいただき、地域社会で一体となって、明日の府中市を担う子どもたちと一緒に育み育てようと盛り上がってきている。発表型のイベントに加え、体験・参加型も充実してきており、子どもたちが将来の目標の発見に繋がる学びができるように、地元企業や近隣の高校・大学の参加や出展に積極的に協力いただけるよう、働きかけをお願いしたい。ここまで「学びフェスタ」を成長させ、成果を上げることができた教育委員会の功績は大きい。毎年の企画・運営、資金調達など様々な工夫を凝らし、苦労も多いと思うが、今後も実り多い「学びフェスタ」の継続を望んでいる。

V まとめ

府中市教育委員会では、事務事業評価制度を導入し6年目を終えたが、平成26年度の評価については、第3次府中市長期総合計画の第3期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な19事業について点検・評価を行った。概ね妥当なものであるとの評価となったが、事業改善あるいは目的拡大、目的絞込等が必要な事業も見受けられた。

このたび、平成27年4月に60年ぶりに「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が大改正されました。新たな教育委員会制度で運営されることになっていくが、教育行政の継続性は変わらないので、事業課題は今後も継続検証し、外部有識者の貴重な意見を参考にし、今後の事業展開につなげていきたい。